

1 研究題目

薬剤性肺障害の診断や予後予測とFeNOの相関性の解析

2 研究の対象

好酸球性炎症の関与が疑われる薬剤性肺障害患者

3 研究目的

薬剤性肺障害の原因については様々であるが、薬剤に対する過敏反応(アレルギー性の慢性気道炎症)の関与が示唆されている。呼気中の一酸化窒素(FeNO)の測定は、アレルギー性(好酸球性)慢性気道炎症(気管支喘息、好酸球性肺炎)を有する患者の診断や治療効果の判定に使用されている。近年では間質性肺疾患の鑑別診断やステロイド治療の反応性の指標にもなるとされている。薬剤性肺障害の診断項目に従って診断された患者において、薬剤性肺障害の臨床病型とFeNO値との関連や診断時のFeNO値と予後予測因子としての可能性について検討する。(研究計画の変更(研究責任者の変更等)によるもの)

4 研究期間

研究倫理委員会承認後～2025年7月15日

5 研究に用いる試料・情報の種類

患者基本情報(年齢、性別、体重、身長)、薬剤性肺障害診断項目、臨床所見、胸部X線検査結果、胸部CT検査結果、血液検査(血算:白血球数、白血球分画(機械法でも可)、血液生化学:LDH、CRP、KL-6、SP-D、SP-A)、FeNO測定値等

6 研究責任者

医師 片岡 幹男